



お江戸舟遊び瓦版 1108号

水彩都市江東 こころ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

首都東京における下町の防災空間をあらく、みる、きく、かんがえる

日時：2025年6月28日12時半～17時

主催：地理空間学会 案内：菊地俊夫都立大名菅教授

猛暑の中、巡検で下町防災空間をあらく、みる、きく、かんがえるに参加した。集合の東大島駅から荒川土手に出て、東京一の広い景観を見ながら洪水が続いた荒川から地域を守るために20年かけて荒川放水路を建設した概要を聞いた。そこを南下し荒川ロックゲートに、荒川と荒川より低い江東区内の水位差を船が通れるように調整する施設だ。

その旧施設が隣の公園に遺されていた。その目の前の中川船番所資料館に。江戸時代以前、江東区



東大島駅からスタート



荒川の土手で解説を聞く



荒川ロックゲート

は、亀戸島しかない干潟だったが、徳川家康が江戸に入る頃、徐々に埋め立てが進み、小名木川がつけられ、行徳の塩田から塩を運んだり、水戸から利根川・江戸川などを通る流通ルートだった。その時代から江戸住民の近郊野菜地で、江東地域の産業革命までは亀戸ダイコンなどの産地だった。関東大震災時以降、大工業地域になり、工業用水に地下水を汲み上げ続け、江東5区最大の災害課題・江東5区マイナス地域が発生した。



旧小松川閘門



中川船番所資料館



江東区洪水ハザードマップ（荒川氾濫時の浸水の深さ）に巡検ルートを示した



各地の塩が奉納されている宝塔寺の塩舐め地蔵



小名木川傍の路道が急に落下していた



小名木川、遙か向こうは東京駅ビル



砂町銀座入口



東京三大賑わいの砂町銀座



砂町文化センターで小休憩



砂町文化センター
高潮浸水深表示



小名木川の活用策の案内



扇橋閘門



桜で有名な大横川親水公園



震災復興橋・福寿橋



木場公園は防災と地下鉄駐車場



旧同潤会アパート



森下文化センターのらくろ館

街に進むと宝塔寺の塩舐め地蔵に江戸の小名木川が想定された。小名木川に出るとすぐ横に階段があるところがあり、小名木川から2mも下がっていて、マイナス地域を痛感させられた。そこから仙台堀川公園に入り、賑わいの東京三大銀座砂町商店街に。商店街は1~2~3mと低く、途中の砂町文化センターで小休止、高潮浸水深 5.7mが印象的だった。さらに進み再び小名木川に入り、小名木川の舟遊びなどの観光活用策推進を解説いただいた。少し進むと扇橋閘門に。さらに桜で有名な大横川親水公園を南下し、関東大震災時の震災復興橋・福寿橋へ。大横川を渡り防災公園・木場公園に入った。江戸から昭和にかけて材木の町として栄え、現在地下は地下鉄の駐車場になっている。そこから北上し、近代日本で最初期の鉄筋コンクリート造り集合住宅・同潤会アパートのジェントリフィケーション(衰退都市が豊かな人々が集まり再生する)を観ることができた。今では女性ビジネスマンに人気とのこと。最後は森下文化センターで田河水泡・のらくろ館を楽しんだ。

所感：貴重な下町防災空間巡検に参加した。災害列島日本の中でも、マイナス地域の防災は厳しい状況だが、旧同潤会アパートのジェントリフィケーションに希望を感じた。今では、若い女性の憧れの町・清澄白河になっている。自分事として荒川氾濫水害対策づくりに注力せねば！（文責 中瀬）